

保育現場における「身体表現」の理解に関する一考察

中村 真由美 宗宮 悠子

Study on the Understanding of Physical Expression at Child Care Scenes

Mayumi NAKAMURA, Yuko SOMIYA

要旨

本研究では保育現場において「身体表現」がどのように理解され、どのように実施されているかについて調査することを目的とした。目的達成のために、質問紙調査を実施した。この結果から、明らかになったことは以下の4点である。

- ① 保育現場における「身体表現」への理解は明確ではなく保育者によってその理解が異なる可能性がある。
- ② 保育現場においては「体操＝ダンス」ととらえている保育者は少なくないが、保育現場でも「ダンス」と「体操」は別物であるにとらえられるべきである。
- ③ 保育現場において身体表現は、発表会や運動会に向けて行われることが多い。
- ④ 保育者にリトミックが身体表現の一つとして理解されていた。また、一部の保育者はリトミックを「ダンス」としてとらえていた。

キーワード：領域「表現」、保育者、表現運動

1. はじめに

日本では平成20年度の学習指導要領改訂に伴い中学校保健体育におけるダンスの必修化が示された。小学校では、それ以前から「表現運動」が必修となっていたが、中学校でのダンス必修化を受け、教育現場ではその指導方法に更に注目が置かれるようになった。

その様な背景から、保育現場における「身体表現」の重要性についても改めて指摘され、多くの専門家がその指導について研究し、実践内容を報告している。小竹ほか(2019)はリトミックについてとりあげ、その具体的な実践内容を報告している。また、本山・渡邊(2021)は、自身が実施してきた「身体表現あそび」の保育実践を充実させるための園内研修について報告している。

このように、保育現場の身体表現に関する活動のための有益な知見は既に明らかになっている。しかし、実際には「身体表現についてはどのような活動を取り入れたらいいのかわからない」という声や、「そもそも『身体表現』とは何かかわからない」という現場の声を聞くことも少なくない。身体表現については『自分なりの表現』を実現させるためには、幼児への関わりに高度な専門性が必要であり、それ故に遊びの展開や指導・援助の困難さが従来より指摘されてきた領域でもある(新山・高橋, 2014)と考えられていることから、保育現場における活動を充実させるための保育者養成校の役割は重要であると言える。保育者養成校における授業内容の更なる向上のためにも、常に実際の現場に生じている問題を把握しておくことは必要不可欠だと考えられる。

そこで本研究では現場の保育者に「身体表現」がどのように理解され、どのように実施されてい

るのかを明らかにすることを目的とした。本研究から明らかになることは、保育者養成校における「身体表現」に関する指導法の授業改善に対する一助となることが期待できる。

II. 方法

1. 対象

2019年8月にA県のB大学で行われた教員免許状更新講習の受講者53名を対象として質問紙調査を行った。そのうち、幼稚園・保育園および子ども園のいずれかで指導していると回答した36名を本研究の対象とした。

2. 調査方法

教員免許状更新講習終了後、研究の趣旨等を記した文書と無記名自記式質問紙を配布した。倫理的配慮として、本研究の目的と方法について受講者に口頭および書面で説明するとともに、調査の回答は任意であり、回答の有無や内容によって対象者に不利益が生じることのない旨説明した。質問紙の提出をもって対象者の同意を得られたものとし、記入後はその場で回収した。

3. 調査項目

(1) 対象者の属性

性別、年代、保育または教育現場での指導年数、出身養成校、現在の指導現場、現在の担当クラスを尋ねた。

(2) 身体表現に関する指導の実施状況

現在の指導現場で身体表現に関する活動を取り入れているか、取り入れている場合はどのような活動をどのような目的で取り入れているかを尋ねた。また、ダンスを取り入れている場合はどのようなダンスを取り入れているかを尋ねた。さらに、現在担当しているクラス以外の過去の指導においてダンスを取り入れたことがあるか、取り入れたことがある場合はどのようなダンスを取り入れているかを尋ねた。

III. 結果

1. 対象者の属性

(1) 性別と指導年数

研究対象とした36名全員が女性であった。また、対象者全体の平均指導年数は約11年8か月であった。

表1 対象者の平均指導年数

現在の指導現場	幼稚園	保育園	子ども園	Total
これまでの指導年数	8年12ヶ月	12年8ヶ月	11年9ヶ月	11年8ヶ月

(2) 年代

対象者は、20代が3名（8.3%）、30代が20名（55.6%）、40代が7名（19.4%）、50代が5名（13.9%）、60代以上が1名（2.8%）であった（図1）。

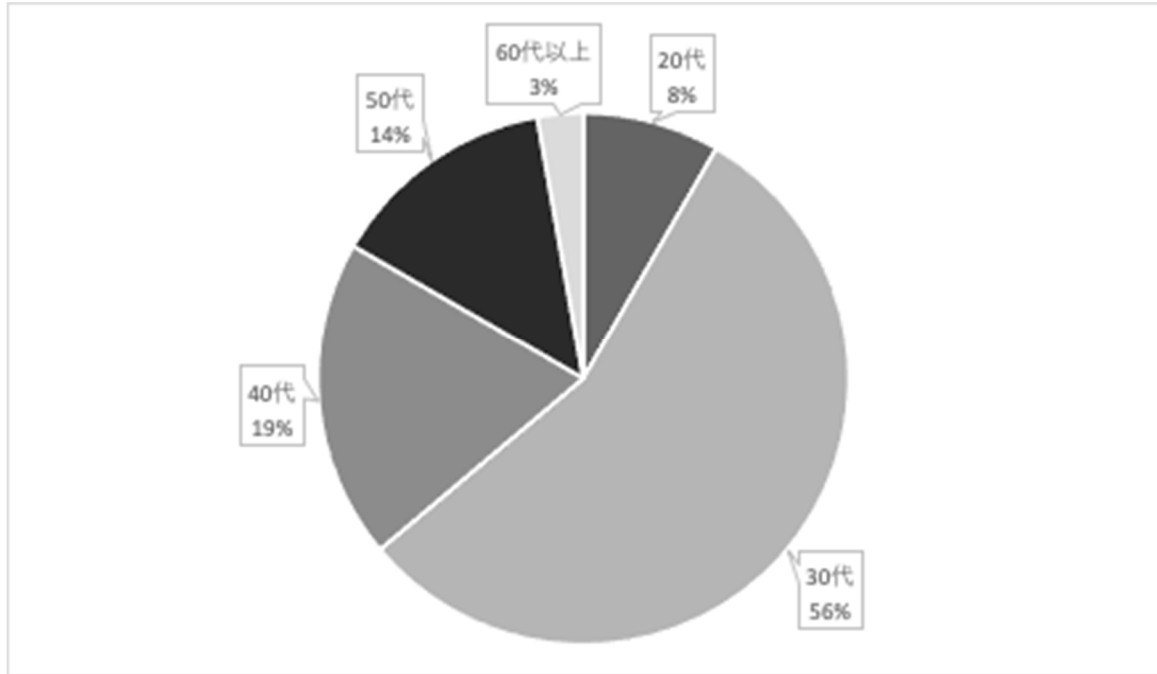


図1 対象者の年代

(3) 指導現場と担当クラス

対象者の指導現場と担当クラスは表1に示したとおりである。

表2 対象者の指導現場と担当クラス

	幼稚園	保育園	子ども園	Total
年長	1	3	1	5
年中	1	0	2	3
年少	2	0	5	7
2歳児	0	4	2	6
1歳児	0	1	4	5
0歳児	0	1	0	1
その他	2	4	3	9
Total	6	13	17	36

2. 身体表現に関する活動の実施情況

(1) 身体表現に関する活動の有無

「現在の指導現場では身体表現に関する活動を取り入れていますか」という質問に対し、32名（88.9%）が「はい」と回答した（表2）。このことから、ほとんどの保育者が身体表現に関する活動

を取り入れていることがわかる。

表3 「現在の指導現場では身体表現に関する活動を取り入れていますか」に対する回答

	はい	いいえ	未回答	Total
幼稚園	5 83.3%	1 16.7%	0 0.0%	6 100.0%
保育園	13 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	13 100.0%
子ども園	14 82.4%	2 11.8%	1 5.9%	17 100.0%
総計	32 88.9%	3 8.3%	1 2.8%	36 100.0%

(2) 身体表現に関する活動の内容

具体的な活動の内容を表3に示した。上記質問に対し「はい」と回答した32名のうち、30名(93.8%)の保育者が「手あそび」を取り入れていた。また、24名(75%)が「ごっこあそび」を、21名(65.6%)が「ダンス」を取り入れていた。「その他」の内容は、「リトミック」、「リズム運動」、「パラバルーン」および「楽器」であった。

身体表現に関する活動の目的は「日常的に」が26名(81.3%)、「発表会や運動会に向けて」が17名(53.1%)であった(表4)。特に幼稚園を指導現場とする者では「発表会や運動会に向けて」と回答した者の割合が100%(5名)という結果になった。

表4 「(身体表現では) どのような活動を取り入れていますか」に対する回答

	手あそび	ごっこあそび	ダンス	その他	全体
幼稚園	5 100.0%	5 100.0%	4 80.0%	2 40.0%	5
保育園	11 84.6%	7 53.8%	9 69.2%	4 30.8%	13
子ども園	14 100.0%	12 85.7%	8 57.1%	6 42.9%	14
Total	30 93.8%	24 75.0%	21 65.6%	12 37.5%	32

その他の内容…リトミック(7)、リズム運動(2)、パラバルーン(1)、楽器(1)

表 5 「(身体表現を) どのような目的で取り入れていますか」に対する回答

	日常的に	発表会や運動会	その他	全体
幼稚園	3 60.0%	5 100.0%	0 0.0%	5 100.0%
保育園	12 92.3%	4 30.8%	3 23.1%	13 100.0%
子ども園	11 78.6%	8 57.1%	2 14.3%	14 100.0%
Total	26 81.3%	17 53.1%	5 15.6%	32 100.0%

(3) 保育現場における「ダンス」の内容

身体表現に関する活動として「ダンス」について、「どのようなダンスですか」という質問に対する回答の詳細は表 5 のとおりだった。ダンスとして「体操」を取り入れている保育者が多い結果となった。また、一部の保育者にはリトミックがダンスとしてとらえられていた。

表 6 「どのようなダンスですか」に対する回答

体操	14
リトミック	6
リズムダンス ・リズムあそび	5
即興	4
創作ダンス	1
ムーブメント	1
遊戯	1
音楽	1

IV. 考察

1. 保育現場における「身体表現」の理解について

本研究において対象となった保育者は「手あそび」、「ごっこあそび」、「ダンス」の他に「リトミック」、「リズム運動」、「パラバルーン」、「楽器」を「身体表現」としてとらえていた。「楽器」については具体的にどのような活動であるかはわからなかったが、それ以外を踏まえると、保育者は、身体を用いて何かを表現することだけでなく、身体を用いた演技、身体を用いてリズムに乗る動きを「身体表現」として理解していると考えられる。また、「身体表現」の示す範囲は広いものだと考えられる。

そもそも幼稚園教育要領や保育所保育指針には「身体表現」という表現は用いられていない。し

かし、感性と表現に関する領域「表現」における内容の「(4) 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由に書いたり、つくったりなどする。」「(8) 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。」（文部科学省、2018）が身体表現に関するものと理解することができる。幼稚園教育要領解説（文部科学省、2018）では内容の解説において「幼児の思い音や声、身体の動き、形や色などに託して日常的な行為として自由に表現できるようにすることが大切である」としている。また、「幼児自身の動きや言葉で表現する」との表現もある。この内容から、身体を用いた表現すべてが身体表現であると理解される。そのため「身体表現」に対する保育者の理解も様々になることは否定できない。

また、本調査において手あそびは、選択肢の一つとして筆者らが提示したものであった。そのため、保育者が手あそびを身体表現の一つとしてとらえているかは明確ではない。菊池（1984）は、保育学生を対象とした調査の中で、手あそびを音楽教育・音楽遊びの一つとしてとらえている。この調査では、「手や指の運動の促進」をねらいとして取り入れている園が多かったことを報告している。また、その他に「子どもたちを集中させること」「興味をひくこと」「集団における楽しさを味わうこと」をねらいとしている園があったことを報告している。近年でも実際の保育現場においては「子どもたちを集中させること」や「興味をひくこと」をねらいとして手あそびを取り入れている保育者は少なくないように思える。つまり実際の保育現場において手あそびを「身体表現」として理解できるかは明言できないということになる。

2. 保育現場における「ダンス」と「体操」の理解について

本研究において、体操をダンスの一つとしてとらえている保育者がいるという結果となった。広辞苑（新村編、2008）によると、ダンス（舞踊）は「音楽に合わせて身体をリズムカルに連続して動かし、感情・意志などを表現する芸術」と説明されている。これに対し、体操は「身体各部の均質な発育、健康の増進体力の鍛錬などを目的として行う一定の規則正しい運動」とされている。このことから、本来ダンスと体操は異なるものであることは明らかである。特に「体操」はあくまで身体各部の発育、健康の増進体力の鍛錬などが目的であり、表現することは動きが異なる。保育現場でも「ダンス」と「体操」は別物であるにとらえられるべきである。

それにもかかわらず、本研究では、現場の保育者が「体操＝ダンス」ととらえている可能性が示唆された。この原因として、幼児教育や保育の現場行われる体操は音楽に合わせて身体を動かす「リズム体操」が主であることが考えられる。すなわち、「音楽に合わせて身体を動かす」ということから「体操」を「ダンス」としてとらえているということである。また、幼児のリズム運動指導員養成テキストである「幼児のリズム運動」（日本幼児体育学会編、2012）においてはリズム体操とダンスが同じものとして扱われている。このことから、保育現場において「体操＝ダンス」ととらえられていることは仕方のないことだといえるだろう。

3. 保育現場における「身体表現」の活動状況について

本研究において、身体表現が発表会や運動会に向けて行われることが多いという結果となった。現場の状況から推測すると、発表会や運動会に向けて行われるのは主にダンスや体操であると考えられる。幼児教育においては「遊びを通しての総合的な指導」が重視されている（文部科学省、2018、pp.34-36）。また、遊びについては「外部からの強制感や拘束感がないこと」、「活動が楽しいこと」、「活動自体が目的であること」が条件としてあげられる（岩崎、2018）。発表会や運動会に向けて行

われるダンスや体操は、幼児が保育者に「強制的に」取り組ませるものであり、「外部からの強制感や拘束感がないこと」という条件に当てはまらない。このことから、身体表現が発表会や運動会に向けてのみ行われているとしたらそれは好ましくないことだと考えられる。

4. 保育現場における「リトミック」の理解について

本研究において、保育者にリトミックが身体表現の一つとして理解されていた。また、一部の保育者はリトミックを「ダンス」としてとらえていた。そもそもリトミックは学校の体育や体操、ダンスなどの授業にとってかわるものではない（バンドゥレスパー、2012、p.9）。保育現場において「リトミック」という名前は知られていてもその理解が徹底されていない可能性が報告されている（長島、2010）ことから、本研究においてリトミックが身体表現の一つとして理解されていたという結果が妥当なものだと考えられる。

V. まとめ

本研究は現場の保育者に「身体表現」がどのように理解され、どのように実施されているのかを明らかにすることを目的として行われた。その結果以下のことが明らかになった。

- ① 保育現場における「身体表現」への理解は明確ではなく保育者によってその理解が異なる可能性がある。
- ② 保育現場においては「体操＝ダンス」ととらえている保育者は少なくないが、保育現場でも「ダンス」と「体操」は別物であるにとらえられるべきである。
- ③ 保育現場において身体表現は、発表会や運動会に向けて行われることが多い。
- ④ 保育者にリトミックが身体表現の一つとして理解されていた。また、一部の保育者はリトミックを「ダンス」としてとらえていた。

幼児教育や保育においては遊びとしての身体表現が活動の中に取り入れられるべきである。音楽表現や造形表現と同様に、日常の活動の中に、運動会や発表会練習とは別の活動として取り入れられていくべきだと考えられる。

その様な活動を保育者が計画するにあたり、保育者が「身体表現」についてしっかりと理解している必要がある。しかし、本研究において適切な理解が図られていない可能性が示唆された。「身体表現」は身体を介して表現することであり、その内容は「ダンス」に限定されるものではない。また、体操やリトミックをダンスあるいは身体表現として理解されてしまっていることも問題として考えられる。

幼稚園教育要領解説（文部科学省、2019）の内容からも、幼児教育や保育においては、あくまで幼児が「表現すること」、「表現できること」が重要であることがわかる。もちろん、体操やリトミックを否定するわけではない。例えば、「リズム運動」や「リズム体操」で培ったからだの力が表現の自由度を拡大していくという意味においては身体表現の土台を育てていく運動としてとらえることができる（丸山、2020、p.68）。しかし、保育者が「身体表現」について適切に理解していくことは重要なことだと考えられる。

保育者養成校においては、幼児教育・保育における「身体表現」についての適切な理解を図ることで、現場における身体表現に関する活動がより充実したものになることを期待したい。

文献

- 岩崎洋子（2018）遊び・生活と運動，遊びの中の運動．岩崎洋子編著，保育と幼児期の運動遊び（第 2 版）．萌文書林，pp.46-53.
- 菊池 由美子（1984）幼児教育における「手あそび」の意義—保育所実習実態調査を中心にして—．生活学園短期大学紀要，7：125-136.
- 小竹沙織・馬場訓子・高橋慧・渡邊祐三・高橋敏之（2021）子どもの主体的な身体表現と多様な動きを引き出すリトミックの保育実践研究（第二報）—保育施設における 4・5 歳児学級の事例を中心にして—．岡山大学教師教育開発センター紀要，11：211-223.
- 丸山美和子（2020）リズム運動と子どもの発達．かもがわ出版．
- 厚生労働省編（2018）保育所保育指針解説．フレーベル館．
- 文部科学省（2017）中学校指導要領（平成 29 年告示）解説．文部科学省．
- 文部科学省（2018）幼稚園教育要領解説．フレーベル館．
- 本山益子・渡邊友子（2021）身体表現の園内研修II —保育者の実践より—．京都文教短期大学研究紀要，59：105-113.
- 長島 礼（2010）保育現場におけるリトミックの理解に関する一考察：質問紙調査から見える課題．関西学院大学教育学会 教育学論究，2：89-94.
- 新山順子・高橋敏之（2014）保育者養成における身体表現教育に関する研究の動向と課題．兵庫教育大学 教育実践学論集，15：79-87.
- 新村出編（2008）広辞苑 第 6 版．岩波書店，p.2483.
- バンドゥレスパー：石丸由理訳（2012）リトミック教育のための原理と指針 ダルクローズのリトミック．ドレミ楽譜出版社．

SUMMARY

The purpose of this study was to elucidate about how to be received about Physical Expression. In order to achieve the objective, survey was carried out. The results are follows; 1. There were many interpretations about Physical Expression. 2. Many nursery school teachers were received physical exercises as dance. But they are two different things. 3. Many activities about physical expression were practice for a sports meeting. 4. Many nursery school teachers were received rythmique as physical exercises or dance. This result was basic data to improve classes.

Keywords : area of“expression”, expression movement, nursery school teachers